

園児保護者らに 「大河館」入場券

バローが可児市に寄託

スーパーマーケット事業などを展開するバローホールディングス(本拠地多治見市)は10日、可児市内の幼稚園児や保育園児の保護者



に対して、11日にオープンする「麒麟がくる ぎふ可児 大河ドラマ館」の入場券約3500枚を寄贈した。同社の篠花明常務が市役所を訪れ、市大河ドラマ活用実行委員会長の富田成輝市長に入場券を託した写真。

オープンに合わせて、子育て世代に入場券を贈り、親子で大河ドラマ館を楽しんでもらおうと、同社が提案した。市に託された入場券は、各幼稚園や保育園を通して配られる。篠花常務は「可児市にとって一大イベントで、どこまで経済波及があるか楽しみ。ぜひ多くの人に楽しんでもらいたい」と話した。(原田大介)